

成果の説明書

(氏名) 阿部圭司	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>■研究活動</p> <p>(1)研究論文（及び論文作成に向けた活動）</p> <p>(a) 大学生と高校生の金融リテラシーに関するアンケート調査を実施し、これに基づく共同研究の成果となる論文を投稿し、掲載された。</p> <p>① 阿部圭司・木下康彦・小澤伸雄，2022年，「大学生を対象とした危険回避度の測定とその要因について」『高崎経済大学論集』Vol.64，No.2，pp.79-99.</p> <p>② 阿部圭司・木下康彦・小澤伸雄，2022年，「金融リテラシーと経済・金融に対する態度との相互作用—大学生を対象としたアンケートに基づく考察」『高崎経済大学論集』Vol.64，No.3，pp.21-44.</p> <p>③ 阿部圭司・木下康彦・小澤伸雄，2022年，「高校生の金融リテラシーとその規定要因に関する研究」『高崎経済大学論集』Vol.64，No.4，pp.45-66.</p> <p>(b) ESG 投資における投資家リテラシーのアンケート調査を実施し，これに基づく共同研究の成果を2021/5/16に異文化経営学会にて報告を行った。</p> <p>④ 阿部圭司・宮田庸一・佐藤敦子・水口剛，2021年，「投資家のサステナビリティ選好に関する国際比較研究」，異文化経営学会2021年度第1回研究大会 また，報告を元にした研究ノートを同学会に投稿し，掲載誌が2021/12に発行された。</p> <p>⑤ 阿部圭司・水口剛・佐藤敦子・宮田庸一，2021年，「投資家のサステナビリティ選好に関する国際比較研究」『異文化経営研究』Vol.18，pp.55-68.</p> <p>(c) 電子部品の価格・販売数の分布に関する共同研究の成果となる論文を投稿，掲載された。</p> <p>⑥ 金井康弘・阿部圭司・関庸一，2021年，「電子部品の個別製品における価格—累積販売量分布の生成メカニズム—新製品設計・価格設定業務へのシミュレーション活用を目的として—」，『経営情報学会誌』VOL.30，No.3，pp.167-186.</p> <p>(d) 地域科学研究所研究プロジェクト（高崎市の製造業に関する研究プロジェクト）の研究成果が2022/3に日本経済評論社から発刊された。阿部は共著と単著の2編を執筆した。</p> <p>⑦ 阿部圭司・野崎謙二，2022年，「ベトナム経済・タイ経済の現況と日経企業の活動状況」『地方製造業の躍進—高崎発ものづくりのグローバル展開』，日本経済評論社，pp.151-170</p> <p>⑧ 阿部圭司，2022年，「金型方案から製造までの一貫生産：株式会社秋葉ダイカスト工業所」『地方製造業の躍進—高崎発ものづくりのグローバル展開』，日本経済評論社，pp.215-241） また，⑧のダイジェスト版が地域科学研究所ブックレット（2022/3発行）に掲載された。</p> <p>⑨ 阿部圭司，2022年，「株式会社秋葉ダイカスト工業所」，『地方製造業の躍進—高崎発ものづくりのグローバル展開—』，地域科学研究所ブックレットNo.6，</p> <p>(e) 地域科学研究所研究プロジェクト（高崎中心市街地に関する研究プロジェクト）は今年度もコロナウイルス流行のため，大きな進展は見られなかったが，第1回研究会（プロジェクトメンバーによる報告）を2021/5/28に，第2回研究会（高崎市の中心</p>	

市街地政策担当者との研究会) を 2021/12/16 に開催した。

また、先進事例調査のため、2021/12/22 から 12/24 にかけて北九州市 (訪問先: 北九州市役所, (株)北九州家守舎, 北九州商工会議所), 2022/3/28 から 3/30 にかけて和歌山市 (訪問先: 和歌山市役所, 紀州まちづくり舎) を訪問し、聞き取り調査を行った。このうち、北九州市における成果の一部が地域科学研究所ニューズレター No.17 (2022/3/31) に掲載された。

- ⑩ 阿部圭司「中心市街地プロジェクト リノベーションによるまちづくりの先進事例調査～北九州家守舎」、高崎経済大学地域科学研究所ニューズレター, No.17.

(2)外部研究機関との連携

(一財)群馬経済研究所と連携した研究会(ぐんま地域経済研究会)を 2021/6/30 に開催した。テーマは『新型コロナウイルス感染症による群馬県経済への影響について』

報告内容は、全体像の把握として「新型コロナウイルス感染拡大による群馬県内企業への影響調査」、「V-RESAS でみる新型コロナウイルス感染症が群馬県に与える影響」の 2 報告、各論として「県内主要産業におけるコロナの影響～県内自動車部品製造企業への影響について～」、「新型コロナウイルスによる県内宿泊業への影響」の 2 報告が行われた。

■教育活動

ゼミナールにて日本経済新聞社が主催する「日経 STOCK リーグ」へ参加した。2 年、3 年生の 7 チームが参加したが、一次審査を通過することはできなかった。近年、レポートの水準が上がってきていることから、指導のあり方を再検討する必要があると感じている。

また、高大連携事業の一環として、高崎経済大学附属高校 2 年生クラスとのコラボゼミを 1 年間実施し、2 チームが一次審査を通過、うち 1 チームが入選した。

■その他

【学内】研究科長(2017/4～)として大学院運営(教務, 入試等)に携わった。

【学内】群馬県立渋川高等学校にて出前講義を行った。(2021/11/18)

【学外】高崎市・渋川市で委員会の委員を担当

2 その他の事項

なし

3 次年度以降の計画・抱負

■研究

- (1) 学生(若年層)に対する金融リテラシーに関する研究では、調査規模を全国に広げ、これまでの知見の普遍性/特殊性を検証する研究を予定している。
- (2) ESG 投資に関する投資家のリテラシー調査では、2021 年度の調査を踏まえて規模を拡大した本格的な調査を検討している。
- (3) 中心市街地活性化の研究については、先述したようにコロナウイルス流行から海外での調査活動が延期となっている。2022 年度は再び日程を調整し、調査を実施したい。国内事例の調査はリノベーションによるまちづくり活動に注目し、活動のスキームと効果の検証を試みてみたい。中心市街地人口については 1970 年代から今日までの市街地拡大及び中心市街地の空洞化、さらに中心市街地人口の回復傾向について検証し、さらに地価や利用状況などの情報を加えた分析を試みてみたい。

- (4) 間隔が空いたが、新規株式公開に関する研究を再開する予定。公開前後の利益操作、資本コストと公開後のパフォーマンスとの関係について
- (5) 群馬経済研究所との研究会では、同研究所のネットワークを活用し、県内企業・従業員を対象とした調査に取り組んでみたい。

■教育

2021年度は対面での講義に戻ったが、県内、学内の感染状況を鑑み、適宜リモートでの対応も実施した。事前に動画を公開することで反転授業を実施することも可能となった。効果的な講義の在り方について様々試してみたい。